発行元 / 株式会社あつまるタウン田原　所在地 / 愛知県田原市田原町萱町 1
TEL/ 0531-24-2345　HP/ http://www.tahara-tmo.com/

街歩ooK田原

街あるっく田原

第 11 号

- 四角いメロン「カクメロ」
- ホタル保全への取組み
- マルキふとん店～寝具選びは健康への第一歩～

ピンチをチャンスに 四角いメロン「カクメロ」

知っていますか？ 四角いメロン「カクメロ」

平成14年に渥美農業高校の生徒による発案で研究プロジェクト「カクメロ」が始まった。普通メロンと言えば丸型だが、この「カクメロ」は名前からも分かる通り四角い形をしている。

発明名称「多面体状メロンの栽培方法及び四角いメロン栽培用型枠」としての特許取得や「カクメロ」として商標登録を済ませており、国内での販売はもちろん香港（商標登録済み）・シンガポールへの輸出も行っている。愛・地球博への出品や昨年ＪＲ名古屋高島屋にて一つ1万5千円で販売されるなど知名度は全国規模である。

街から マスクメロンが消える

田原市は全国有数のマスクメロンの産地であった。しかしピーク時の昭和58年に450ｈａあった作付面積は平成23年には約70ｈａまで減少している。その間マスクメロンの卸売価格は1玉７００円前後で推移しており、30年近く経った今でも価格が上がらないばかりか、むしろ下がっている。価格が安いマスクメロンは粗末に扱われ、それがブランド価値の低下を招くことになる。

さらに原油価格の高騰により、生育適温の高いマスクメロンは栽培コストの負担が増大した。昭和の時代にマスクメロン栽培に意欲を燃やしていた生産者は高齢となり、その高度な栽培技術を継承する青年が育たない。田原市の特産物であるマスクメロンは風前の灯火になりつつある。

今、渥美農業高校では、地域のマスクメロン栽培の伝統技術の復活に取り組んでいる。平成23年度の研究テーマのひとつが「愛知の伝統野菜『渥美アールス』のカクメロ栽培試験」である。渥美アールスとはマスクメロンの品種名であり、昭和60年頃この地域で誕生した。当時、新高松や池尻と呼ばれ栽培されていた28系統品種の中で最も品質の良いものを選定し、品種統一されたものである。平成になりＦ1品種の台頭や輪菊、丸玉トマトの普及などの影響により渥美アールスは激減し、今では営利栽培をしている農家はほとんどいない。

学校のガラス温室で渥美アールス10株を栽培し、そのうち5株をカクメロとして栽培、標準品種と比較試験を実施した。結果は良好で、見学に来た農業改良普及員も「この渥美アールスなら他の品種と遜色なく期待できる」と評価した。カクメロとしても外観は良好であり、今後継続調査をして、付加価値向上を目指していきたい。

ピンチをチャンスに変えて 地域を元気にしたい

先人が築いた地域の伝統技術と渥美農業高校で開発した斬新な技術が融合して「渥美アールスのカクメロ」が特産化できれば素晴らしいと考えている。

取材協力・渥美農業高等学校　加藤俊樹（敬称略）

ホタル生息地の環境保全活動

今年もホタルが舞う季節になりました。５月下旬から６月上旬にかけて、田原市でも多くの場所でホタルを観ることができます。
今回はその中から３カ所をピックアップ。それぞれの見どころやホタル、環境保全への取り組みを紹介していきます。
綺麗な川にしか生息できないホタル。その寿命はとても短くはかないものです。観察の際はマナーを守り、幻想的な光の世界を楽しみましょう。

東部地区
～ビオ・とうぶ～

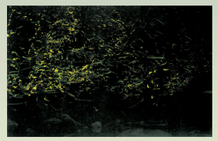
地元市民とともに歩んだ８年間

●見どころ

「子供達のために」との思いから、平成 16 年に「ビオトープ」を建設。東部小学校の児童に施設名を募り、地元の東部と掛けて『ビオ・とうぶ』と名付けられた。

●取り組み

田原市の入口でもある豊島町。当時は市の協力もあり、地元建設業者や小学校、市民といった大勢の方の協力を得て進められた。ビオトープ建設後、他に出来ることを検討した結果、ホタルを放流したらどうかとの案が出た。ホタルに詳しい伊藤三也先生に相談したところ、川の状態も良いとのこと。そして平成 17 年、東部小学校の児童により 2,000 匹のホタルの幼虫を２回に分けて放流した。放流をおこなったのはその２回のみだが、昨年はいつも以上のホタルが舞うのを観察できた。川の環境もよい為、カワニナも自然に増殖している。また地元市民の協力により、里山にある倒れた杉の木を使い、お手製のイスを作ったりと環境整備にも貢献している。「平成 16 年から環境整備保全などに関われたことが、最高に楽しい８年間だった。今後も市民の方が環境保全に意識を持てるよう、里山や学校林環境整備などにも力を入れていきたい。」と語っている。



取材協力：高橋昭好（敬称略）

【お知らせ】
●車のライトや懐中電灯などの照明を付けないで下さい。
（ホタルは人口的な灯りを嫌います）

【観察できる時間】
●午後７時頃～

福江・古田・山田地区
～免々田川～

地域の宝を生かした街づくり

●見どころ

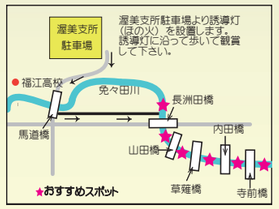
「川」「道」「もてなしの心」を表すには綺麗であることが基本。平成 22 年より清田・福江まちづくり協議会が見物客の道案内になればと、市役所渥美支所の南より川沿い 1.5 キロに灯篭（ほの火）を約 40 本設置した。水田に写り込むほの火はとても幻想的。

●取り組み

平成 18 年 清田小学校が「生き物調査」を始めたのをきっかけに、平成 19 年３月下旬 保育園児により 50 匹のホタルの幼虫を放流。当時の竹炭ブームで竹炭は有害物質の吸収・浄化作用や脱臭効果がある事を知り、平成 20 年３月以来里山を荒らす「モウソウダケ」を竹炭にした。

そして長洲田橋から寺前橋にかけて約 10 ヶ所に毎年設置。地域の住民組織などの協力により、河川美化や水質浄化に取り組んだ結果、ホタルやカワニナも年々増殖傾向に。清田小学校では、地元の有志の協力により「竹炭作り体験」を行なっている。今後も地元の学校の協力を得て、「ゴミ拾い活動の実施」や「生物・水質検査・魚観察」など、環境保全に取り組んでいきたい。

取材協力：木村春雄（敬称略）



【お知らせ】
●駐車場は渥美支所をご利用下さい。
渥美支所駐車場より誘導灯（ほの火）を設置します。誘導灯に沿って歩いて観賞して下さい。
（現地への車乗入れは禁止）

【観察できる時間】
●午後７時～９時頃まで

藤七原地区
～清谷川・庄司川～

ホタルの舞う夢を追って

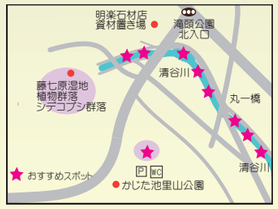
●見どころ

平成３年、庄司川上流に「ゲンジボタル生息地」の看板が設置され、「藤七原汚水処理場」には無数のゲンジボタルが乱舞している様子が描かれている。定番の清谷川も良いが、「かじた池里山公園」も環境整備され、ホタル観察スポットになり、藤七原全域で一晩で 3,000 匹のホタルを観察できる。

●取り組み

平成元年、衣笠地域婦人会と田原町環境衛生課・保健所の協力により水の浄化活動と水質検査をまとめ発表。環境課の協力でゲンジボタルの人口飼育を開始した。多くの試行錯誤を重ね、平成３年に初めて人工飼育が成功し、その後も毎年放流を続け現在は自然にホタルもカワニナも繁殖するようになった。平成 12 年７月、有志が集まりホタル観察保護・シデコブシ育成保護・河川美化の三つの活動を目的に「せせらぎの会」が発足され、翌年のホタル観賞には街灯の光が邪魔になるため、自動点滅装置の街灯７基を設置した。川の清掃により、河川美化だけでなくカワニナの多い場所やホタルの幼虫の発見など川の状況の把握にもつながる。平成１４年には「農村自然環境整備事業」が導入され、ホタルが棲める環境整備が整った。

取材協力：藤城昌彦（敬称略）



【お知らせ】
●駐車場は藤七原公民館・衣笠市民館・市役所駐車場をご利用下さい。

【観察できる時間】
●午後７時半～ 11 時頃まで

『寝具選びは健康への第一歩』

machicco
田原の企業・お店で活躍されている方を紹介します！

File No.7

（有）マルキふとん店
～睡眠環境研究機構認定コーディネーター～
鈴木 正和さん

プロフィール
1978 年生まれ。中学３年生まで大阪にて育つ。その後親の転勤により、高校から 26 歳まで三重県四日市に居住を移す。現在は店長としてお店を盛り立てている。

鈴木さんが奥さんの両親が営むマルキふとん店を継ごうと思ったのは、マルキふとん店の跡取りがいないこと、そして奥さんが田原に帰って来たがっていたのがきっかけ。

「結婚当時は三重の四日市に住んでいたし、お店を継ぐことなど頭にもなかった」

初めは知らない土地で商売をすることにとても不安があったという。

マルキふとん店ではオーダー枕や敷布団、マットレスなどの寝具を扱っている。

オーダーメイド枕は、３年前に西川リビングと提携した際に導入した立位測定器を使用。一見、身長計のように見えるこの計測機で体のラインを読み取り、そこから理想的な枕の高さを算出する。枕選びの一番のポイントは高さであり、硬さは好みでいいのだそう。10年間高さ調整無料が付いていて、それだけ自信のある商品だと分かる。中身は３１５０円で入れ換えができるのも嬉しい。

その他に、燃やしても有害物質の出ない高反発ウレタンを使ったマニフレックスマットレスや、土に埋めても自然に還るゴムの木の樹液を使ったラテックスのマットレスなども人気だ。

寝具は自分に合ったものを使用しないと体の不調の原因になる。柔らかい布団だと、腰と背中が沈んで姿勢が曲がってしまう。逆に硬い布団では圧力が掛かって血液の流れが悪くなり、体にフィットせず痛みが生じる。１日の１／３を睡眠が占めていることから考えても、自分の体に合った寝具を使うことが大切だ。鈴木さんは体格を見ればどんな寝具が合うか分かるので、お客さんの要望を聞きつつその場で的確なアドバイスができる。

鈴木さんは大阪で生まれ、高校のときに三重の四日市に移り住んだ。田原に来た当時は知らない土地での生活にとても苦労したという。

「三河弁や田原独特の言葉使いを理解するのが大変だった。渥美の方だと未だに分からない言葉があったりする。でもお客様にとっては僕の関西弁がきつく聞こえてしまうこともあって、言葉が違うってこんなにも大変なんだと実感した」

初めての接客業で苦労は多かったが、同時に田原の人々のあたたかさにも気付いたという。

「田原は祭りを中心としてコミュニティを作っている。僕も祭りに参加して友人ができた。狭い街だからこそ人との付き合いを大切にしていきたい」

仕入れやメーカーとの打合せで忙しい毎日を送っている鈴木さんだが、前々から温めている計画がある。成長過程にある子どもにキャラクター枕ではなく、良い睡眠が摂れるよう設計された枕を提供したいと考えているのだ。若さとやる気に溢れた鈴木さんの今後の活動に注目したい。

マルキふとん店～シャディサラダ館田原八軒家店～

田原市田原町二の丸 25
☎ 0531-22-0014
営 10:00-20:00
休毎週水曜日
（7・12 月は休まず営業）
P 10 台

オーダーメイド枕
5 種類より好みの硬さを選択可能

マットレス各種取扱い